

2021年度 宮古島研修 出張報告書

琉球大学 農学部 亜熱帯地域農学科 農林共生学コース3年

学籍番号：196109J 名前：田中友啓

1. はじめに

今回の宮古島研修（2022/3/22～3/25）は、当委員会の学生が主体となって企画、実行したものである。内容としては、1日目に島内のビーチクリーン活動、2日目に宮古島の水の利用について学ぶツアーを受ける、3日目に水と御嶽の歴史及びハンセン病について学ぶツアーを受ける&宮古島についての意見交換会を行う、4日目にエコアイランド宮古島について講義を受けるという形とした。

2. 参加日時 2022年3月22日～3月25日 3泊4日

3. 場所（主な場所）※住所も記載

・1日目

高野漁港(沖縄県宮古島市平良東仲宗根添)

・2日目

通り池(沖縄県宮古島市伊良部佐和田)

下地島空港(沖縄県宮古島市伊良部佐和田 1727 番地)

宮古島マティダファーム(沖縄県宮古市上野字宮国 1348-1)

宮古島地下ダム資料館(沖縄県宮古島市城辺福里 1645-8)

野城泉(ヌグスクガー)(沖縄県宮古島市城辺)

浦底漁港&海岸(沖縄県宮古島市城辺福里 62)

仲尾峰ファームポンド(沖縄県宮古島市城辺)

・3日目

宮古島市歴史文化資料館(沖縄県宮古島市城辺砂川 599)

飛鳥御嶽(沖縄県宮古島市平良東仲宗根添)

西銘御嶽(沖縄県宮古島市平良東仲宗根添)

雪塩ミュージアム(沖縄県宮古島市平良狩俣 191)

宮古南静園ハンセン病歴史資料館(沖縄県宮古島市平良字島尻 888)

添道サガリバナ(沖縄県宮古島市平良西仲宗根 1143)

・4日目

エコパーク宮古(沖縄県宮古島市下地字上地 743)

4. 参加したイベントや研修会等の名前

- ・1日目：高野漁港でビーチクリーン活動（講師：宮古の海をキレイにし隊 井上美香様）
- ・2日目：宮古島水利用ツアー（講師：おきなわ環境クラブ 下地邦輝様）
- ・3日目：御嶽視察、雪塩工場見学、宮古南静園ハンセン病資料館の見学、懇談会（講師：おきなわ環境クラブ 下地邦輝様）
- ・4日目：エコアイランド宮古島の取り組みについて講義を受ける（講師：宮古島市役所エコアイランド推進課 職員様）

5. 内容 ※イベントの概要とそこで自分／メンバーが行ったこと等

- ・1日目：高野漁港で講師の井上美香様（宮古の海をキレイにし隊）と一緒に宮古島のビーチクリーン活動を行った。私たちは、宮古島のゴミと沖縄本島のごみの違いなどを考えながらゴミ拾いを行った。私はゴミの回収だけでなく、皆で集めたゴミを指定の集積ポイントまで運ぶ仕事を担当していた。その後、井上様と意見交換を行い、ビーチクリーンの際の人の集め方や井上様本人の取り組みなどについてお聞きした。
- ・2日目：おきなわ環境クラブ 下地邦輝様主催で、当委員会の学生を対象とした「宮古島水利用ツアー」が行われた。①通り池→②下地島空港→③ティダファーム→④地下ダム資料館→⑤浦底漁港&海岸→⑥仲尾峰ファームポンドという流れで行われた。この研修を通して、私たちは宮古島における地下水の役割とその重要性、地下ダムの働きなどについて主に学ぶことができた。その中でも、私は特に地下ダムについてさらに興味を持ち、下地様に直接質問をした。
- ・3日目：おきなわ環境クラブ 下地邦輝様主催で、御嶽・水の歴史やハンセン病について学ぶツアーが行われた。そして、これらのツアー終了後に懇談会が行われた。①御嶽視察（長濱幸雄様による案内と解説）→②雪塩工場見学→③宮古南静園ハンセン病歴史資料館見学→④サガリバナ見学→⑤懇談会という流れで行われた。私たちは、宮古島における御嶽の歴史や水利用の歴史、ハンセン病の歴史について主に学ぶことが出来た。その中で、私は宮古島におけるハンセン病の歴史について深く印象に残った。
- ・4日目：エコパーク宮古にて、宮古島市役所エコアイランド推進課の職員様に「エコアイランド宮古島の取り組み」について講義をしていただいた。私たちは、この講義から宮古島が取り組む様々な事例（例：エコアイランド宮古島宣言 2.0、理想通貨の作成、エコパスポート）と抱える課題などについて学ぶことが出来た。その中で、私は観光地であるがゆえの課題や水利用の問題などについて疑問が湧き、職員様に直接質問をした。

6. 出張（研修）先で学んだこと

私は今回の宮古島研修を通して、様々なことを学ぶことが出来た。その中でも特に、宮古島の水の重要性と島のハンセン病の歴史、エコアイランド宮古島の取り組みについて学習したことが強く印象に残った。

宮古島は、水の多くが地下に流れ込むか蒸発するかで地上に水が残りにくいという特性を持っている。したがって、水を確保することが求められてきた歴史がある。そして、地下ダムの

完成によりこれらは改善していった。この事例を応用できれば、宮古島と似たような理由で水不足となっている地域での水不足の改善を世界的に行えるのではないかと改めて考えた。

宮古島におけるハンセン病の歴史においては、患者に対しての人権問題とその証言などについて主に学ぶことが出来た。その内容は非常に生々しく、本当に人間として扱われていなかったことが分かった。事前学習の知識だけでは到底知りえないような証言などが数々あり、中でも「当時は南精園の近くには行くな」と大人たちから言われていたことや、職員が先に避難したことで患者が置いてきぼりになっていたこと、強制的に死産にさせていたことなどが強く心に残った。そして、差別や偏見を基に人を判断することは愚かなことであると考えた。

エコアイランド宮古島とは、いつまでも住み続けられる豊かな島を目指して持続可能な街づくりを行うことを目的とした政策である。そして、宮古島版SDGsこと「エコアイランド宮古島宣言 2.0」を発表して5つのゴールを設定しており、今後はエコアイランド推進計画に関連施策を追加的に盛り込んでいくという取り組みがなされている。島ならではの特性（水、観光客の増加など）を加味して取り組むことで、観光地として栄えることだけではなく、島民が「いつまでも住み続けられる街づくり」を達成しようとしていることが理解できた。そして、観光地としての開発の際は、観光客と地元民が双方にとってプラスとなるような事業を行っていくことが重要であると考えた。

以上のことから、私は宮古島が持続可能な社会を創るために取り組んできた過去の事例や課題、そして島民一丸となって乗り越えてきた歴史について主に学ぶことが出来た。そして、今後の島の発展とともに持続可能な社会の構築が目指されているというこの事例を、同じ沖縄県の住人として知る必要があると改めて考えた。

7. エコキャン学生委員会の活動に活かせること／活かしたいこと

エコキャンに活かせること及び活かしたいこととしては、ゴミ拾い活動への応用とエコツアーの改良、学生主体で企画する出張の記録を残して後の世代に繋ぐことが主に挙げられる。

ゴミ拾い活動への応用については、集客方法の改良を考えている。当委員会が主催するゴミ拾い活動では、集客率があまり高くないことが課題となっている。そこで、井上さんの例の様に、周りに積極的に声掛けしつつゴミ拾いを定期的（週に1回くらい）に開催することで改善することが出来るのではないかと考えた。したがって、ビーチクリーン活動の回数を増やすこと、キャンパスクリーン活動の際はエコキャンメンバーだけで行うのではなく毎回募集をかけることで活動に活かしたいと考えた。

エコツアーの改良については、あえてグループを分けて少人数で行うことを提案したい。研修の2、3日目の下地様によるツアーは、解説者2名、参加者5名という形で行われた。この形式では解説者と参加者の距離がとても近く、疑問に思ったことをすぐに質問しやすい環境にあったことから、これをエコツアーにも導入することで、より質の高いツアーを実施できるようになると考えた。したがって、参加者が大人数であった場合は、エコツアーの質を高めるために少人数に分けた後に実施することで活動に活かしたいと考えた。

今回の宮古島研修は、学生主体で企画&立案した出張である。しかし、実施のための準備を上手く進めることが出来なかった。大きな原因としては「コロナウイルスや各出張参加者のスケジュールの都合により、対面や電話での会議が少なかったことに起因する相互の認識のズレ」、「書類作成及び提出の作業を甘く見ていたこと（想定以上の時間がかかった）」、「メールでのやりとりが主だったため、進みが遅かったこと」が挙げられる。今回の研修を一つの前例として、良かった点や反省点、メリット・デメリット、実行までの流れ、先方との打ち合わせの方法などを記録したものを後の世代に伝えることで、活動に活かしたいと考えた。

以上のような内容から、今後のエコキャンの活動に活かしていきたいと考えた。しかし、当委員会の特性上、メンバーの増減やその時々企画などによってキャパシティが大きく変化する。したがって、実施の時期を見定め、私たちが無理なく出来る範囲で積極的に活用していきたいと思った。

8. その他 感想や所感など

今回の出張を終えた感想として、無事に全員が体調不良・病気・怪我無く終わったことに達成感、安堵感に包まれる一方で、「もっとこうすればよかった」と思う反省点が非常に多く浮かんでいる（これらの点は、文書化して後の世代に引き継ごうと考えている）。

事前学習や準備に力を入れていたつもりであったが、事例を知識としてインプットすることとフィールドワークを通して学ぶことは異なると改めて理解した。また、文章を読むことで得られる知識だけでは知りえないことが非常に多く存在することを学べた。そして、五感を研ぎ澄ませて感じ、学ぶことと、持っている知識が組み合わせることで、より深く記憶に刻まれるのだと強く実感した。

宮古島の歴史・文化・取り組みだけではなく、物事を知った気になることの恐ろしさについても改めて学ぶことが出来た研修であった。